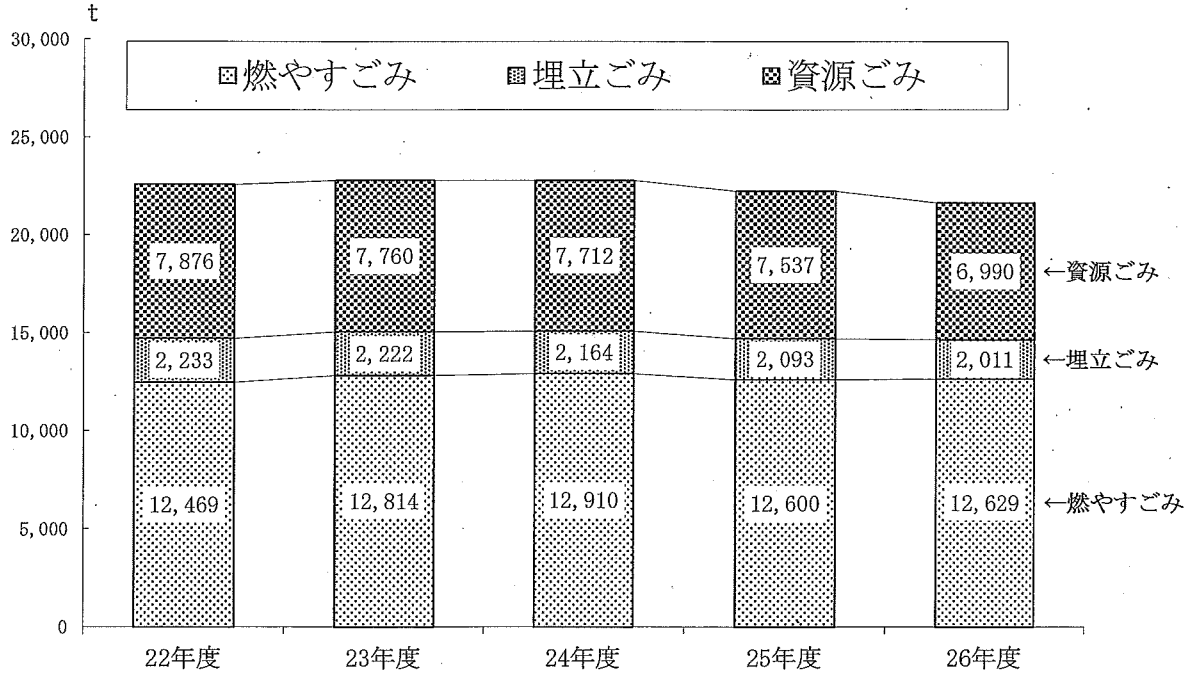


平成26年度 一般廃棄物の排出状況について

H27.9.14 総務委員会協議会
資料No.4

1 人口及びごみの収集量の推移



項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	対前年度 比率 %		
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *	人	107,830	107,223	106,453	105,611	104,950			
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	25,300	25,200	21,950	21,529	21,190	-	
	実績値	t/年	22,578	22,796	22,786	22,230	21,630	97.3	
処分ごみ (A)	実績値	t/年	14,702	15,036	15,074	14,693	14,640	99.6	
	燃やすごみ	計画値	t/年	12,900	12,700	12,135	11,910	11,723	-
		実績値	t/年	12,469	12,814	12,910	12,600	12,629	100.2
	埋立ごみ	計画値	t/年	3,360	3,380	2,203	2,106	2,049	-
		実績値	t/年	2,233	2,222	2,164	2,093	2,011	96.1
うち火災ごみ	実績値	t/年	7	3	18	8	0	0.0	
資源ごみ (B)	計画値	t/年	8,860	8,880	7,612	7,513	7,418	-	
	実績値	t/年	7,876	7,760	7,712	7,537	6,990	92.7	
	紙資源	実績値	t/年	4,995	4,908	4,804	4,686	4,179	89.2
	金属資源	実績値	t/年	615	587	571	551	511	92.7
	ガラスびん	実績値	t/年	452	425	415	401	416	103.7
	ペットボトル	実績値	t/年	90	80	78	74	65	87.8
	プラ資源	実績値	t/年	1,542	1,578	1,639	1,631	1,618	99.2
	特定ごみ	実績値	t/年	13	13	26	22	28	127.3
生ごみ	実績値	t/年	169	169	179	172	173	100.6	
再資源化率 (B/C)	計画値	%	35.0	35.2	34.7	34.9	35.0	-	
	実績値	%	34.9	34.0	33.8	33.9	32.3	-	
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値	kg/人・年	209.4	212.6	214.0	210.5	206.1		
処分ごみ	実績値	kg/人・年	136.3	140.2	141.6	139.1	139.5	100.3	
	燃やすごみ	実績値	kg/人・年	115.6	119.5	121.3	119.3	120.3	100.8
	埋立ごみ	実績値	kg/人・年	20.7	20.7	20.3	19.8	19.2	97.0
資源ごみ	実績値	kg/人・年	73.1	72.4	72.4	71.4	66.6	93.3	

*平成24年度からは住民基本台帳人口に外国人含む

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成19年度~23年度)及び同(平成24年度~28年度)による

2 分析

平成 26 年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は 21,630 トンで、前年度対比 600 トン、2.7%の減少となったものの、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成 24 年度～28 年度）における計画値 21,190 トンとの比較では、440 トン上回っている。

(1) 処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は 14,640 トンで、前年度対比 53 トン、0.4%の減少となった。

燃やすごみの収集量は、平成 22 年度から 24 年度まで増加が続いたものの、25 年度に 0.3%減少し、26 年度はほぼ横ばいとなった。人口減少に伴うごみ排出量の減少は続くと考えられるが、一方で景気回復などにより消費が拡大することでごみ排出量が増加することも考えられるため、今後の動向を注視したい。

埋立ごみの収集量は、過去 5 年間の推移を見ると、飯田市最終処分場グリーンバレー千代が運用開始された平成 21 年度からは減少傾向が続いている。これは分別の徹底が一定程度なされていること、また、ガラスびんやペットボトルの資源化、また小型家電類のピックアップ回収等の資源化が促進されていることも一因と考えられ、施設の延命化に大きく寄与している。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は 6,990 トンで、前年度対比 7.3%の減少となった。また、資源ごみの中でもペットボトルが前年度対比 12.2%減少し、最も大幅な減少率となっている。この減少理由としては、全国の販売量（PET ボトルリサイクル推進協会調べ）が減少から横ばいに推移していること、さらに本体の軽量化が進められたことなどが要因と考えられるが、市内の大規模小売店舗などで行われている資源回収も一つの要因と思われる。

また、紙資源についても前年度対比 10.8%減少し、大幅な減少率となっている。この減少理由についても、市内の大規模小売店舗などで行われている資源回収が主な要因と思われる。金属資源を含めたこれらの資源ごみは、過去 5 年間、毎年、減少が続いている。

ガラスびんについては、平成 24 年から平成 25 年の全国の出荷実績の推移（日本ガラスびん協会の調査）が減少している状況にあるが、当市における平成 26 年度の処理量は微増となった。

また、プラ資源（プラスチック製容器包装）、旧市内一部地域における生ごみの分別収集量については、ほぼ横ばいに推移している。

(3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集量総量で除した再資源化率は 32.3%と、前年度より 1.6 ポイント減少した。平成 26 年度のごみの収集量は前年に比べて減少しているものの、その多くは資源ごみの減少分が占めているため、ごみ収集量総量に占める割合も減少することとなった。